

# 茶室覚書

千宗旦 京都 裏千家最古の書院 16...  
八畳 客座下座床 かんうんてい

# 寒雲亭

外観：棧瓦葺きの屋根に、柿葺の軒を葺き降ろし土間庇  
点前座：踏込畳に向切炉を切った、八畳での侘びた構成  
床の間：床柱は北山杉丸太、面付け高く昇る（待庵も面付け高い）  
床の左脇（柳の間側）には竹の壁止を入れ吹抜き、獅子垣窓を付ける 西に一間床で、東に一間の付書院  
床框は北山杉丸太、下わずか蹴込み板。  
天井：床前、竿縁平天井 下座、のね板張り白竹竿縁の平天井  
残り南四畳の上を船底天井

- ・千宗旦の好みと伝えられ裏千家で最も古い書院
- ・長押はなく、柱も上がり口の本を除きすべて丸太
- ・露地に面して小縁を設け、貴人口を付け、内寸は5.7尺。中敷居窓や茶道口と同じ高さ
- ・貴人口の隣は中敷居窓で、その横の柱は席中唯一角柱
- ・北側一間の襖は、有名な「探幽手違いの襖」
- ・勝手側（点前座後）に竹の無目を横棧に入れ、下をはめ殺しの張付襖 写真は夏に『葎戸』を建てたところ

